

年 組 名前:

問1

視覚障害者を支援する白いつえを使った実証実験が行われました。白いつえは、なにと連動していますか。

.....  
.....

問2

このつえは、どのような仕組みで、利用者に知らせますか。

.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

# 白いつえを AI 支援

## カメラで信号感知、振動伝達

### 甲府で実験 障害者向け来年販売

福祉機器の開発などを手がける「クリエイティブデザイン」(東京都、和田康宏代表)は14日、甲府市内で、AI(人工知能)チップや小型カメラと連動させた白いつえを使い、視覚障害者の道路横断を支援する実証実験を公開した。赤信号や横断歩道の白線をカメラで感知すると、AIがつえを振動させ利用者に知らせる仕組み。今後はカメラの小型化などを進め、来年中の販売開始を目指している。

〈山本就三〉

同社によると、小型カメラを通してAIが赤信号を感知すると、専用機器を取り付けた白いつえを振動させて視覚障害者に危険を知らせる。青になると振動が止まり、歩行が可能なることを伝える。横断歩道の白線も感知し、横断歩道にさしかかったことを知らせる。

14日は甲府市北口2丁目の信号機のある横断歩道で実証実験を実施。県内の視覚障害

者4人が協力した。リュックの肩部分に小型カメラ取り付け、専用機器を付けた白いつえを持って横断歩道を往復した。

参加した山本友治さん(74)

「甲府市には「音声機能がないう信号機も多いので非常に助かる。段差を感知する機能も搭載されればありがたい」と話した。

同社は今後、実証実験に加え、めがねなどに取り付けられるようにカメラの小型化などを進める方針。和田代表は「障害者がどんな外を出歩けるような社会の実現に、テクノロジーを通じて貢献していきたい」と話している。

(2023年9月15日付 山梨日日新聞7面)

問3

実証実験を行った企業は、今後、どのような改良をしたいと考えていますか。

.....

問4

あなたは、どのようなものがあれば、障害者にとって生活が便利になると思いますか。

.....  
.....